



## インフォメーション



### 日本蜘蛛学会 第40回大会・総会 のお知らせ

2008年度の日本蜘蛛学会大会・総会は大阪城のほとりの追手門学院で実施いたします。概要は以下のとおりです。詳細については、後日、あらためてお知らせいたします。

- 会場：追手門学院 大阪城スクエア (540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-20 追手門学院 大手前中・高等学校本館6階)
  - 日程：2008年8月23日(土)・24日(日) [役員会を22日(金)に開催]
    - ・22日(金)
      - 14:00-15:00 編集委員会
      - 15:00-17:00 評議員会
      - 17:00- 自然保護委員会
    - ・23日(土)
      - 10:00- 一般講演
      - 13:00- 総会
      - 14:00- 一般講演
      - 18:00- 懇親会
    - ・24日(日)
      - 10:00- 一般講演
- (上記の時刻は変更されることがあります。)

また、ポスター発表も予定しています。)

●宿舎について：今回は、参加者の宿舎について大会準備事務局ではお世話いたしません。各自で、会場近辺の宿舎を確保してくださいようお願いいたします。後日お届けする実施要領に宿舎のリストを添付する予定です。

●参加費用：大会費、懇親会費は検討中です。

●問い合わせ先：

567-8502 大阪府茨木市西安威 2-1-15  
追手門学院大学 生物学研究室 加村 隆英  
電話 072-641-9550 (研究室直通)  
ファックス 072-643-9432 (大学教務課)  
電子メール kamura@res.otemon.ac.jp

(加村隆英)

## 日本蜘蛛学会奨励賞

今年は奨励賞候補の推薦がなかったので、「該当者なし」ということになりました。

(会長 鶴崎展巨)

## What a wonderful web 「クモの網」展が開催されます!

本会会員の船曳和代さんによる、クモの網の標本の展示会が3月から11月にかけて、大阪・名古屋・東京にあるINAXギャラリーで行なわれます。大阪展は5月23日に終了しましたが、

名古屋展と東京展がこれから開催されます。是非お出かけ下さい。

名古屋展 INAX ギャラリー名古屋  
6月23日～8月21日 名古屋市中区錦  
1-16-20 INAX 名古屋ショールーム 2F  
10:00～18:00 休館日 水曜日

夏期休暇(8月13日～17日)

東京展 INAX ギャラリー1  
9月4日～11月22日 東京都中央区京橋  
3-6-18 INAX:GINZA2F  
10:00～18:00 休館日 日祝日



## 同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期刊行物の内容、採集会や講演会(総会・例会)の日程などを紹介する。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加されてはいかがでしょうか。

関西クモ研究会(会長:田中穂積)

会報「くものいと」を年2回発行。採集会・研究会例会などを年数回実施。

今年度の採集会は、2008年5月25日(日)と9月28日(日)いずれも淀川河川敷を予定。

例会は、2008年12月21日(日)に四天王寺高校で実施の予定。詳細は後日連絡。

くものいと 41号(2008年6月発行予定)

入会申し込み

〒567-8502 茨木市西安威 2-1-15

追手門学院大学生物学研究室内

関西クモ研究会 Tel 0726-41-9550(加村研)

Fax 0726-43-9432(大学教務課)

会費 年1000円

中部蜘蛛懇談会(代表:緒方清人)

会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3回発行。採集会を年2～4回。

総会・研究会を年1回実施。

採集観察会は、

2008年6月15日(日)

愛知県名古屋市中区白鳥区白鳥町裏山

担当者 村上勝

集合:地下鉄名城線「八事日赤」駅2番出口  
午前10時頃

2008年9月13日(日)

愛知県豊田市トヨタの森

担当者 大原満枝・杉山時雄

2008年10月5日(日)

愛知県岡崎市扇子山 担当者 緒方清人

いずれの観察会も、参加の際には事前に担当者に連絡のこと。

中部蜘蛛懇談会・三重クモ談話会合同合宿

2008年7月26日(土)～27日(日)

場所 三重県鳥羽市・伊勢市一帯

詳細は後日連絡。

総会・研究会は2009年2月11日(水)を予定。



中部蜘蛛懇談会  
2007年度総会研究会参加者一同

蜘蛛 (KUMO) 40 号 (2007.7.20 発行)

内容は、遊絲 21 号を参照のこと。

入会申し込み他

全般について

〒472-0022 知立市山屋敷町東山 10 - 6

緒方清人 (代表)

Tel 0566-83-4474

E-mail:neon\_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など

〒451-0066 名古屋市西区児玉 1 - 8 - 24

柴田良成 (会計)

Tel 052-522-1920

会費

正会員 年 3000 円 (高校生以下 1000 円)

準会員 「まどい」のみ 1000 円

三重クモ談話会 (会長:橋本理市)

会報「しのびぐも」を年 1 回発行。採集会・合宿・例会などを年数回実施。

採集会は

2008 年 6 月 22 日 (日) 鳥羽市・伊勢市一帯  
鳥羽駅 午前 10 時集合

7 月 26 日 (土) ~ 27 日 (日) 三重県鳥羽市・  
伊勢市一帯 (中部蜘蛛懇談会との合同採集会)

9 月 21 日 (日) 鳥羽市・伊勢市一帯  
鳥羽駅 午前 10 時集合

11 月 30 日 (日) 鳥羽市・伊勢市一帯  
鳥羽駅 午前 10 時集合

2009 年 2 月 1 日 (日) 鳥羽市・伊勢市一帯  
鳥羽駅 午前 10 時集合

参加希望者は必ず 1 週間前までに事務局に連絡ください。

総会は、2009 年 4 月に予定。詳細は後日連絡します。

しのびぐも 34 号 (2007.5.31 発行)

内容は、遊絲 21 号を参照のこと。

入会申し込み

〒515-0087 三重県松阪市萌木町 7 - 4

貝發憲治 (事務局)

Tel (Fax) 0598-29-6427

会費 年 2000 円

和歌山クモの会 (会長:米田 宏)

会報「和歌山クモの会会報」を年 1 回発行。  
総会・観察会を年 1 回実施。

和歌山クモの会会報 No.14 (2004.9.17 発行) 以降の発行はありません。

内容は、遊絲 15 号を参照のこと。会報 15 号の発行は未定です。

入会申し込み

〒649-6264 和歌山市西浜 465 - 3

第 2 小杉マンション 1 - A 青木敏郎 (事務局)

Tel 090-1072-4414

会費 年 1000 円

東京蜘蛛談話会 (会長:新海栄一)

会報「KISHIDAIA」を年 2 回、「談話会通信」を年 3 回発行。採集会年 4 回・合宿年 1 回・総会例会などを年 2 回実施。

今年度の採集会は、埼玉県北本市「北本自然観察センター」で実施します。

2008 年 7 月 13 日 (日), 10 月 19 日 (日),  
2009 年 2 月 15 日 (日)

J R 高崎線北本駅西口改札前 午前 10 時 00 分  
集合。世話人 平松毅久

合宿は香川県高松市塩江温泉周辺で行ないます。

期日:2008 年 7 月 18 日 (金) ~ 20 日 (日)

宿泊:香川県高松市塩江町 1 - 6 塩之江温泉郷  
新樺川観光ホテル Tel 087-893-1200

費用:1 泊 2 食 11000 円 × 泊数 この他にレンタカー代補助など 3000 円

申し込み締め切り：6月30日

申し込み、問い合わせ先：八王子市大塚 274 -  
29 - 603 新海 明

Tel (Fax) 042-679-3728

例会は、2008年11月下旬の予定。詳細は後  
日連絡します。

KISHIDAIA 93号(2008.2.28発行)

斎藤慎一郎：民俗学的に見た「ナガコガネグモ  
相撲」考

新海 明：イソコモリグモ探蛛行(青森編)

桑田隆生・境 武志：日本大学理工学部船橋キ  
ャンパスおよび周辺地域における準絶滅危惧  
種ワスレナグモ *Calommata signata* の分布

西野真由子：コガネグモの味覚と記憶 - フリッ  
シュの実験に感化されて -

石本 舞・金田愛美・池田博明：ヒメグモの生  
活史を探る(2)母親の世話の意義

斎藤慎一郎：マミクロハエトリとはどんなクモ  
か

仲條竜太：このクモを探せ No.3, キクメハシリ  
グモ

初芝伸吾：このクモを探せ No.4, コケオニグモ  
DRAGLINES



東京蜘蛛談話会  
2007年度2月採集観察会参加者一同

萩野康則：千葉県の住宅地で採集されたムツト  
ガイセキグモとツシマトリノフンダマシの記  
録

高津佳史：沖縄、泡瀬干潟のヤマトウシオグモ

荘司康治郎：東京都のマルゴミグモ

荘司康治郎：ヤマゴミグモの威嚇行動

笹岡文雄：栃木県で記録されたキノボリトタテ  
グモ

仲條竜太・五味真人：スジブトハシリグモがオ  
タマジャクシを捕らえたが...

<目録ドラッグラインズ>

仲條竜太：八丈島のクモ

仲條竜太：八丈小島のクモII

仲條竜太：神津島のクモ

仲條竜太：徳島県海部郡牟岐町出羽島のクモ

仲條竜太：式根島で採集したクモ

仲條竜太：小笠原諸島母島のクモ

植松いのり：粟島島のクモ

笹岡文雄：伊豆大島のクモ類 追加

谷川明男・馬場友希：南西諸島のクモ類追加記  
録

中西亜耶・仲條竜太：徳島県伊島のクモ

仲條竜太・中西亜耶：伊豆諸島利島のクモI

笹岡文雄：伊豆諸島・利島のクモ類

入会申し込み

〒186-0002 国立市東3-11-18-201

(有)エコシス 初芝伸吾(事務局)

Tel 042-501-2651

E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp

会費 年3800円(学生 2000円)

関西クモゼミ

2008年度は6月8日(日),10月19日(日),  
12月14日(日)に行ないます。

連絡先 吉田 真 077-561-2660

東京クモゼミ

毎月1回、第1日曜日に千葉縣市川市の加藤宅  
で開催。会費などなく誰でも参加できる。

連絡先 新海 明 0426-79-3728

または、加藤輝代子 047-373-3344

**言いたい！聞きたい！**



## 薩南・トカラ宝島日記

谷川明男

2006年に、トカラ列島の中之島と宝島、そして屋久島を巡るクモ旅を計画した。ところが台風4号の接近でフェリーが欠航し、トカラ列島の宝島へは行くことができなかった。その旅行のリベンジで、もう一度薩南トカラの旅を計画した。今回はトカラで訪問するのは宝島だけとし、種子島、宝島、屋久島の順に巡ることにした。目的は、キムラグモ類、トタテグモ類のDNA解析用のサンプリングである。種子島と屋久島からは両者の記録があるが、宝島からはキムラグモ類の記録はない。はたして本当にキムラグモ類はいないのだろうか。沖縄の渡名喜島でもやはりトタテの記録があってキムラの記録がなかったが、実際に出かけてみるとキムラも生息していたのであった。キムラグモ類の生息の有無も興味深い、「タカラジマ」という魅力的な名前の響きもあって、どんな島なのだろうかと期待が高まる。

2007年7月3日

羽田空港に向かう電車の中で日本航空からメ

ールが入った。搭乗予定の鹿児島行き飛行機は悪天候のため着陸できないときには福岡空港に向かうか羽田に引き返すという条件づきの出発になりますという。昨年と一緒だ。

なんとか飛行機は鹿児島空港に着陸したが、確かに鹿児島は大雨だった。種子島行きの飛行機は車輪が出ないなどのトラブル続発で有名になったボンバルディアの小型機だ。無事に飛んでくれるのだろうか。

結局心配は杞憂に終わり、ボンバルディアは無事に離陸した。南に飛行するとともにやがて雲が薄くなり、窓の向こうに島が見えた。かなり山がちな島だ。種子島を縦に見ていると思い込んでいたのだが、やがて眼下に平らな島が広がった。それが種子島だった。あれは屋久島だ。山がちなわけだ。しかし、種子島にも想像していたよりは起伏がある。何とかなりそうだ。

7月4日

天気予報に反して雨は降らず、島の中部から南部にかけてサンプリングして回った。やはりキムラはうじゃうじゃいるのだがトタテはなかなか見つからない。個体数が少ないのか、あるいは私の搜索能力が低いのか、結局、1ポイントで4個体しか見つけることができなかった。

7月5日

島の北部から採集を始めたのだが、最初のポイントでの活動途中から強い雨になり、その後もやむことなく降り続いてしまったので、その後何もできずに終わった。

7月6日

雨が上がったので鹿児島への飛行機の時間まで採集を続けた。やっとの思いでもう1個体トタテを見つけ、なんとか5個体となった。あっ

ぼ～らんど付近ではジグモを見つけた．幼体だったのだが，DNA がとればなにかわかるだろう．最後に，せっかく種子島に来たので大急ぎで鉄砲伝来の地と宇宙センターを一目ずつ見て回った．

夕方，鹿児島空港で馬場君と落ち合い，城山公園でチリイソウロウグモを採集してからフェリー「としま」に乗り込んだ．出港は 23:00．目的地宝島へ到着するのは明日の 12:30 くらいだからおよそ 13 時間半くらいの船旅である(成田空港から飛行機に乗って 13 時間経つとアトランタに着く)．出港するときの船内放送で，「錦江湾を抜けるとかなりしけていますのでご注意ください」という案内があったが，その放



白いトカラハブ(上)と  
リュウキュウツヤハナムグリを捕食中のヤマシロオニグモ(下)

送のとおり船はかなり揺れた．途中にいくつもの島々を寄っていくので，島に停止している間は一息つけるが，それ以外はじっと毛布に包まってツタンカーメンと化しているほかはなすすべもなかった．

7月7日

12 時半過ぎに宝島に到着．昼食後は島の東側の海岸を回った．集落を抜けるところで早速トタテの空巣を発見し，生息を確認することができた．そして，そのすぐ横には白いトカラハブがじっとうずくまっていた．白い蛇にはなんとなく神々しい魅力がある．その後，海岸林ではたくさんのズミグモを発見し，馬場君のお目当てであるチリイソウロウグモもたくさん見つけた．また，砂地にわずかな草がはえているところではなにやらカワラメキリグモを思わせるワシグモの仲間を多数発見した．たけの低い草地を馬場君がスイーピングすると，珍しい小さなハエトリが採れた．帰り道にはトタテをいくつか採集することもでき，タカラジマウズグモも多数見つけた．しかし，キムラは生息していないようだ．トタテがこれだけ見つかってキムラの巣も見つからないというのはないだろう．

夜は，島の東部を散策したが，あまり面白くなかった．同じようなクモしかいない．一番目立つのはヤマシロオニグモだ．そこらじゅうにうじゃうじゃいる．そしてワキグロサツマノミダマシ．腹面にも若干色がついていてサツマノミダマシのようにも見える．そのほかには特に見るべきものもなくこの夜は終わった．

7月8日

今日は島を一周しながら 7 箇所トタテの標本をサンプリングした．島を巡りながら気がつ

いたのは、リュウキュウツヤハナムグリが多数飛んでいることだ。ヤマシロオニグモは昼もたくさん網を張っている。網のちかくに隠れているものもいるが、網の真ん中にあるもののほうが多い。この網にツヤハナムグリがかかっている。やはり昼も餌が取れるので網を張っているのだろうか。それに対してワキグモはやはり隠れているもののほうが多い。ワキグモにハナムグリは荷が重いのであろう。島の西部、女神山の周辺ではオオジョロウグモの姿が見られた。しかし、ジョロウグモはまったく見つからない。観音洞には説明看板があり、スチーブンスンの宝島のモデルになった島であるとか、海賊がここに財宝を隠したとかと書いてある。まあ最後に書かれた「夢とロマンに満ちた場所である」というのがご愛嬌か。夜、オオハシリグモの捜索に来ることができる沢をみつくろっておこうと思ったのだが、沢の数は少ない。そして、水のある沢は道から深く落ち込んでいて降りることができず、降りられそうな沢は枯れ沢だ。結局、集落近くの小さな沢にめぼしをつけ、夜、探しにきてみた。しかし、結果ははずれであった。

7月9日

午前中にはイマキラ岳に登ってみた。およそ200mほどの高さがあるので気温が少し低く、吹く風が心地よかった。登山道沿いではたくさんのヤマシロオニグモとアマミオニグモを見た。アマミオニグモの網はかなり傾いており、まるでシロカネグモ類のそれのようである。また、コガタコガネグモの個体数も多い。

午後は、まだまだ元気な馬場君と少し疲れの出してきた私は別行動とし、私はふたたび女神山方面へ散歩に向かった。どうもこの辺が一番森の様子が好ましいように感じる。途中、貯水池

の近くでタカラジマウズグモのかくれおびの写真などを撮影していると、ふと、神々しい卵のうが目に入った。ツシマトリノフンダマシだ。そばの葉裏で雌成体も発見。少し体色が薄い個体であった。雄もいないかと思ってあたりを探ってはみたが見つからなかった。すでに卵のうがあるのだから当然かもしれない。馬場君はまた島の反対側まで行ってきたそうだ。若いう。

夜は、私がおっとも気にいった女神山の森へ出かけた。森の感じは多少いいめなのだが、見ることでできるクモはほかの場所とあまりかわりばえがしない。途中、シロオビトリノフンダマシと2個体のシロハブに出会ったのがなかなか良かった。黒ハブもいたが、やはり黒いのはあまり魅力がない。道がひらけた牧場に接しているところで2個体のゲホウグモを見た。ヤマシロばかり見てきた目にはかなり新鮮な刺激であった。ツツゲホウグモがいればいいなあと思



ツシマトリノフンダマシの卵のう(上)とメス成体

っていたのだが、ゲホウどまりであった。歩きながら馬場君と話したのだが、この島にはジョロウグモがいない、アシナガグモ属、オニグモ属 (*Araneus*) のクモやワカバグモ類、ハナグモ類も採れなかった。やはり小さな島のクモ相は変だ。特定の種類が圧倒的に優占的な立場に立つ。

7月10日

昼のフェリーで奄美へ移動した。私はフェリー出発まで宿で休憩としたが、若い馬場君はまた観察に出かけて行った。若いう。名瀬からは、明日の飛行機で鹿児島、そして屋久島へと移動だ。南のほうでは台風4号が発生したという。やはり出たか。まあこの旅は馬場君と一緒に旅である。(研究室内では、馬場君は台風男、雨男として名高い。)

7月11日

奄美から鹿児島へ移動した私たちを直撃したのは台風ではなく屋久島の大雨であった。その日、鹿児島発屋久島行きの飛行機はそれまでのすべての便が欠航となっていた。私たちの予約していた飛行機も出発時間を待たずに欠航が決まった。飛行機の代わりにトッピーでなんとか屋久島へ行くことはできたが、私たちの帰る予定の日に台風4号がちょうどここに来るようだ。まあこの旅は馬場君と一緒に旅である。

7月12日

台風や梅雨前線の雨を心配したが、なんとか一日採集をすることができた。馬場君のチリ搜索を優先し、そのポイントごとにトタテを探したが、すかの連続であった。キムラはどこでもうじゃうじゃいるのにトタテはまったく姿を現さない。昨年やっと1個体を見つけた吉田集落

近くでやっと2個体を見つけることができた。途中でジグモの小さな幼体を見つけた。屋久島にもジグモがいる。今までなんで記録がなかったのだろう。夕方になって海では波が高くなってきた。台風はかなり強いようだ。馬場君と相談し、明日、一日早めに帰ることにした。やはり台風にたたられた。まあこの旅は馬場君と一緒に旅である。



### クモの網 What a Wonderful Web! (INAX BOOKLET)

INAX ギャラリー企画委員会・船曳和代・新海明(2008) INAX ギャラリー, 75 pp. (大型本 本体 1500 円) ISBN: 978-4-87275-843-6. 21 × 20.5 cm

What a wonderful book! 本書を手にしたときの私の感嘆「うわーすごい!」を、ルイ・アームストロングの名曲「What a wonderful world」のもじりと思われる本書の表題にならって英訳するところだ(私の感嘆を表現するには、どちらかという to wonderful よりも fabulous を使いたいところだ)。

本書はトイレや洗面台の老舗メーカーとして知られる INAX が運営する INAX ギャラリー(東京・名古屋・大阪にある)で、本年(2008 年)春から大阪で開催されている「クモの網 What a Wonderful Web!」と題する巡回企画展の図録兼展示解説書という位置づけである。主役は日本蜘蛛学会が世界に誇るクモ網標本作製の第一

人者船曳和代さんが集められているクモ網標本の写真で、それに、これまたクモ網研究の第一人者の新海明さんが解説で彩りをそえられている。このクモ網 2 大巨頭のお二人にかかる本書の内容が悪いはずがない。

船曳さんのクモ網標本の写真は、これまで別の書籍でも（たとえば、池田ら 2003）いくつも拝見しているが、このように 1 冊に総覧できる形になったのは

たぶん初めてだと思う。しかも、嬉しいことに全部カラー写真である。網自体は白色でバックは青なので一見 2 色刷だが、網を支えている枝や網にかかった葉やゴミ、それに餌の虫などの色が自然に出ているので、これらがじつは全部カラー印刷だとわかる。個々

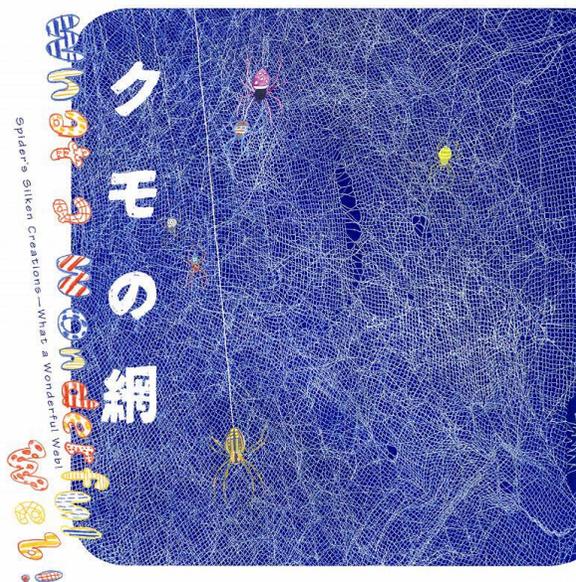
のクモの網は見開きで細部までよく見えるサイズで印刷されている。どのクモの網も美しく興味をそそられるものばかりである。最初に登場する「ふんわりドーム」と題されたアシナガサラグモとユノハマサラグモのドーム網からすでに面白い。立体的な網がなぜこのように平面の台紙に違和感なく移し取られるのだろうか。スズミグモの網を横からとらえた標本（pp. 10-11）やヌカカのような感じの双翅目昆虫がびっしりとかかったジョロウグモの網（pp. 18-19）は圧巻である。「驚異のレコード盤」といみじくも題されたゲホウグモの網も見事だ。解説を読むと、この密なヨコ糸はゲホウグモが

ガを主食にしているためだそう（鱗粉があるので、粘着糸であるヨコ糸を密にしないと逃げられる）。なるほど。この説明はガを主食とするクモの網では以前から目にしていた馴染みのあるものだが、私はゲホウグモがガ食のクモだということ自体を知らなかった。他にも本書で私が初めて見た網、初めて知った事実は山ほどある。チュウガタコガネグモがあのような変わった

網を張るクモだとは知らなかった。ウズグモ類の子グモが親のそれとは異なるシート状の網を張ることを私が初めて学んだのは Shear さん編集（1986）の「Spiders. Webs, Behavior, and Evolution（クモ・網・行動・進化）」という本の中にあつた Lubin さんの総説だが、オス

も類似のシートを部分的に組み合わせた網を張ることは知らなかった（さきほど、その本を取り出し、Lubin さんの総説をざっと見たが、オスの網についてはやはりそこではとくにふれられていないように見えた）。ヒラタグモやネコハグモの網のように、これはいったいどうやって作ったのかと、想像がふくらむものもある。

本書の最後には、インタビューという形での船曳さんの標本づくりにまつわる話と、新海明さんによるエッセイ風のクモ網解説記事がある。これらも面白かった。たぶん関西在住の方をのぞきクモ学会会員の多くの方にとってもそうだろうと思うのだが、私の脳裏に船曳さんのお名



前とクモ網標本のことが焼き付いたのは、1998年夏に滋賀県草津市の立命館大で吉田真さんのお世話で開催された学会大会のりのクモアート展示のときである。私の中では新星のごとく現れたすごい人だったのだが、このインタビュー記事で1973年にはすでに本会に入会されていたのだということを知りえた。おみそれもはなはだしい。しかし、クモの生態を如実にとらえたこれらの標本が産みだされる背景には、このクモとの長いつきあいと経験があったのかと、納得した。その記事には、クモ網標本作製の苦労や、長年の経験で編み出されたコツ、個々のクモ網標本に関する裏話がある。大いに楽しめた。私には「へえー」の連発だったが、まだ手にして読んでいない方の楽しみを奪ってはいけなないので、あえてここに書くことは控えたい。ここに書かれなかった楽しい話がきっとまだまだたくさんあるはずである。続きの話をもっと聞きたい、と強く思った。

ここまでの記述で、私はこれらの網の写真を作品ではなく標本と呼んできた。どれも非常に美しく、INAX ギャラリーの展示として取り上げられたこと自体もアートとして通用することを証明しているが、私はこれを単なる科学アートという言葉で表現したくない。船曳さんのクモ網標本の真価は、これらがすべて、クモの生活や生態、それに餌の捕獲装置としてのクモ網のすばらしい適応が忠実に読み取れる形で作成されているという点にあるのだろうと思う。だから、これはあくまで「アーティスティックな科学」である。その真価は新海さんのクモ網研究者としての深い知識に基づく洗練された解説によって最高度に高められている。

本書はその装丁やレイアウトもすばらしい。多くのページにちりばめられた七字由布(しちじゆう)さんのカラフルなイラストもかわいく

楽しさ満点である。奥付をみるとデザインやレイアウトなどで大勢の人が本書の作成にかかわっていることがわかるが、じつに見事な共同作業だと思う。展示会の図録という位置づけではあるが、本書にISBN番号がふられ、書籍として全国の書店でも購入できる形で出版されたことがなにより嬉しい。このようにINAX ギャラリー企画による共同作業で作られているためか、執筆者名は奥付には明記されているものの、表紙には出ていない。したがって、書店購入の際には著者名は「INAX ギャラリー企画委員会」で見ないと見つからないかもしれないことに注意してほしい。

なお、INAX ギャラリー大阪からはじまったこの巡回企画展、この記事が出る頃にはすでに終わっている可能性が高いが、引き続き名古屋と東京で下記のとおり予定されているようなので、お近くの方は巡回企画展にも出かけられることをお奨めしたい。

名古屋展 場所：INAX ギャラリー名古屋。会期：2008年6月14日(土)–8月21日(木)。休館日：水曜日、夏期休暇。TEL:052-201-1716 FAX:052-201-1730。〒460-0003 名古屋市中区錦1-16-20 INAX 名古屋ショールーム2階  
東京展 場所：INAX ギャラリー1。会期：2008年9月4日(水)–11月22日(土)。休館日：日祝日。TEL:03-5250-6530 FAX:052-201-1730。〒104-0031 東京都中央区京橋3-6-18 INAX:GINZA 2F

#### 文献

池田博明(編)池田博明・新海明・谷川明男(共著)2003.クモの巣と網の不思議。多様な網とクモの面白い生活。文葉社(東京)183pp.  
Shear, W. A. (ed.) Spiders. Webs, Behavior, and Evolution. Stanford University Press,

Stanford, California, 492 pp.

鶴崎展巨（鳥取大学地域学部）

## 採集情報

日本各地で採集された、稀産種や分布上の重要種などについての情報を掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

### スズミグモ

東京都国分寺市東恋が窪 3 丁目 2006 年 9 月 4 日 成体 1 萩宇田一平・節子発見，新海栄一同行。

### ワクトツキジグモ

岡山県備前市三石 成体 1 2007 年 5 月 24 日 野嶋宏一。

愛知県豊田市岩倉町「トヨタの森」 2008 年 3 月 6 日 幼体 1 杉山時雄。

### イソコモリグモ

岩手県下閉伊郡田野畑村明戸海岸 2008 年 5 月 8 日 成体・幼体 多数 新海 明・谷川明男。

### アオグロハシリグモ

兵庫県青垣町岩屋山 成体 1 2006 年 8 月 29 日 鶴崎展巨。

### コケオニグモ

鹿児島県徳之島三京 成体 1 2001 年 6 月 22 日 杉本雅志採集，谷川明男同行。

### セムシアカムネグモ

佐賀県と賀郡東と賀町干潟よか公園 成体 1 2007 年 10 月 23 日，佐賀県杵島郡白石町六角川河口堰 成体 2 成体 1 2007 年 10

月 23 日 鶴崎展巨。

### ヒカリアシナガグモ

佐賀県東と賀町干潟よか公園シチメンソウ群落（ヨシ上） 成体 6 成体 7 2007 年 10 月 23 日，佐賀県杵島郡白石町六角川河口堰シチメンソウ・フクド群落（ウラギク上） 成体 1 2007 年 10 月 23 日，愛媛県伊予郡松前町重信川河口左岸（ハマサジ，シナダレスズメガヤ上） 成体 3 成体 4 2007 年 9 月 27 日 鶴崎展巨。

### フタホシヒラタヒメグモ

岡山県笠岡市鋼管町（笠岡湾干拓地） 成体 1 2007 年 5 月 4 日 野嶋宏一。

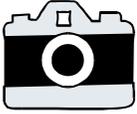
### トカチハイツカグモ

岡山県鏡野町上斎原（六合牧場） 成体 1 2007 年 6 月 1 日 野嶋宏一。

（新海 明・谷川明男集約）



セムシアカムネグモ（上）  
ヒカリアシナガグモ（下）



## ギャラリー



『うわっ 死んじゃった?』

飼育しているタランチュラがまだ子供だったある日、飼育容器の中でひっくり返ってしまっているのに気がついた。思わず「うわっ 死んじゃった」とショックを受けたのだが、ふと気がついてみると、ひっくり返って死んでいるクモなど見たことがなかった。クモはみんなそのままうずくまって足を縮めて死んでいる。そのまま様子を見てみると、やがて無事に脱皮したのであった。

(谷川明男)



### 編集後記

関東地方は雨降りの多い春だった。でも、

この雨が新緑をはじめとする新しい命を育んでもいる。街路の木々にクモの網を見かけるようになった。日本各地で開催される観察会に参加される方。はたまた、ひとり旅先でクモに出会う愛好家もいることだろう。そんな折りに得られた、ちょっとした採集記録や観察記を「遊絲」に送っていただけたら幸いである。会員のご協力をお願いしたい。

(新海 明)

### 遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.jp (谷川明男) まで

発行は、年2回(5月, 11月)の予定。締切は発行月の前月末日です。

## 日本蜘蛛学会

### 入退会は

庶務幹事

〒520-0062 大津市大谷町6 D-6

榎元敏也

E-mail: tmasume@pop21.odn.ne.jp

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

〒186-0002 東京都国分市東3-11-18 203

(有)エコシス 初芝博吾

E-mail: hatsushiba-ecosys@h8.dion.ac.jp

Tel 042-501-2651

年会費 正会員 7000円(学生は5000円)

郵便振替口座 00970-3-46745

遊絲 第22号

2008年5月25日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 鶴崎展巨